

四月二十日に中学校で「情報モラル教育」という授業がありました。正直、この授業があると知った時「なんでこんなめんどくさい授業を受けなきゃいけないの。」と思いました。けれど、実際に授業を受けてみたらいじめについて深く考えさせられ、授業を受ける前の自分の考えが変わりました。

この授業では弁護士さんが中学校へ来て、いじめのことについてたくさん話してくださいました。その中でも印象に残った話が二つあります。一つ目は「涙のコップ」です。涙のコップは何か嫌なことがあったり、悲しいことがあったりするとコップの中の水がどんどんたまっていってしまうというコップです。この水があふれてしまうと世の中にたえきれず、やんでしまったり、一番最悪な場合は自ら命を絶ってしまったりしてしまいます。けれどコップはずっとたまるのではなく、減らすこともできます。例えば、友達と遊んだりまんがやドラマを見たりして心に安らぎを与えることで水を減らすことができます。私はこのコップの話聞いた時、自分はしっかり心に安らぎを与えられているんだと思って、安心しました。けれど友達がいなければ友達と遊ぶことだってできないし、まんがもお金がないと読む以前に買えないし、ドラマだってテレビやスマホがないと見れないのでその環境を整えてくれている両親や友達に感謝したいと思いました。

二つ目は「鹿川くん事件」です。私はこの事件の内容を知った時、とてもおそろしく感じ、背筋が凍りました。私が生きてきた中で一番とっていいほどの衝撃的な事件でした。この事件はとある中学校で実際にあったいじめ事件です。第二学年に進級した後にあるグループから使い走りを鹿川くんがやらされるようになり、それが徐々にひどくなっていき毎日のように暴行を受けるまですになりました。鹿川くんはそれでもたえていました。けれどある日、体調がすぐれなくて、一日休むことになりました。そして次の日に学校へ行ったら鹿川くんの机の上に「鹿川くんへさようなら」という文字と共にクラスの全員から、「やすらかにねむれ」という言葉や「バーカ」「ざまあみろ」という鹿川くんを侮辱するような言葉などが書かれた色紙が置いてありました。さすがにたえきれなくなった鹿川くんは学校へ来れなくなり、のちに自ら命を絶つことになりました。私はこの話を聞く前まではいじめについてあまり深く考えていません

でした。理由は被害者側にも加害者側にもなったことがないからです。もちろんいじめはやってはいけないことだと分かってはいたけれど内心では「いじめていってもそんなにひどくないんでしょ」といじめを甘く見ていました。だからこその話を聞いた時、涙が止まりませんでした。実際にはとても残酷でおそろしいことが分かりました。私は涙と同時にいかりも込み上がってきました。いくら同級生でも悪ふざけの度をこえすぎていると思いました。それに同級生だけでなく、先生達にも問題があると思います。これだけひどいいじめなのに気付かないはずがないし、もし気付いていなかったとしても鹿川くんがこんなに苦しんでいるんだから気付くべきです。気付いていて見のがしていたのなら、本当に教師の資格はないです。ただ勉強を教えるだけで生徒に寄りそわない教師なんてこの世の中に必要ないと私は思います。そして、鹿川くんをいじめていなかった人はクラスにいます。その人達は自分がいじめられるのが怖くて助けられなかったのかもしれないけど、「大丈夫か」という一言さえかけていれば鹿川くんの涙のコップも減って、自ら命を絶つこともなく、幸せに暮らしている未来があったのかもしれないと思います。このいじめをギリギリまでたえた鹿川くんの次の人生はとても充実した生活で幸せに暮らせるようにと心から願っています。

私はこの授業を通して、いじめの重みとおそろしさについて学び、いじめは絶対に絶対にやってはいけないことだと改めて気付くことができました。そして、もし自分の周りに苦しんでいる人がいたら助けることはできなくても、「大丈夫か」という一言などをかけたいです。それで救われる命があるのなら、私は精一杯その人に寄りそいたいと思いました。

この「鹿川くん事件」は決して忘れてはならない事件です。もう二度とこのような事件がおこらないようにと心の底から願っています。